

奈良宣言（日本語仮訳）
～アジア太平洋地域における新たな成長戦略としての観光～

2010年9月22日～23日
日本 奈良県奈良市

《序文》

- 1 我々、APEC メンバーエコノミーのオーストラリア、ブルネイ、カナダ、チリ、中国、中国香港、インドネシア、日本、韓国、マレーシア、メキシコ、ニュージーランド、パプワニューギニア、ペルー、フィリピン、ロシア、シンガポール、チャイニーズ・タイペイ、タイ、米国、ベトナムの観光大臣は、馬淵澄夫 国土交通大臣による議長のもと、2010年9月22日から23日まで日本の奈良における第6回 APEC 観光大臣会合(TMM)に参集した。会合には APEC 事務局長も出席した。

《2010年日本 APEC のテーマ》

- 2 我々は、2010年日本 APEC 全体テーマ「チェンジ・アンド・アクション（*Change and Action*）」のもと一堂に会し、この国際政治経済秩序の著しい変化の時代においても、観光が引き続き、アジア太平洋地域における重要かつ関連性のある役割を果たしていくことを確認した。

《今次会合のテーマ》

- 3 我々は、雇用創出、貧困縮減、環境保全を含む観光の経済的重要性を認識して、TMM のテーマ「アジア太平洋地域における新たな成長戦略としての観光（*Tourism for New Strategic Growth in the Asia-Pacific region*）」を支持する。首脳に対して、横浜での宣言においてアジア太平洋地域の経済的成長への重要な貢献に関する言及を盛り込むことを懇請する。

《ボゴール目標達成年》

- 4 また、本年は先進エコノミーにとってボゴール目標の達成を目指す重要な節目の年でもあり、その達成へ向けた進展は評価されるべきである。また我々は、均衡があり、あまねく広がり、持続可能で、革新的で、安全な経済成長を達成することを目指す APEC 成長戦略の洗練化を目指して引き続き努力すべきである。

《会合の概要》

- 5 そのような中、本会合は協働・友愛・結束・相互理解の精神の中で開催され、観光を成長のエンジンとして認識し、地域開発にも貢献できるような観光産業の均衡がとれ、かつ持続可能な成長及び、APEC 観光協力を引き続き強化していくことで合意した。

《TWG の役割》

- 6 我々は、観光ワーキンググループ (TWG) が
- 1) アジア太平洋地域内及びより広範な APEC のフォーラム全体にわたって、観光の意義及び観光が経済のけん引役として果たす役割に対する認識を高める
 - 2) 観光に影響する諸問題に取り組む他の APEC のフォーラム及び政策決定者に影響力を及ぼす
 - 3) 観光業及びデスティネーションの持続可能な経営管理を促進する
- といった課題に対処する具体的かつ戦略的なアプローチをとる必要があると認識している。

《ATSP》

- 7 この目的を達成するため、我々は TWG に対して、APEC 地域における観光の成長と繁栄を達成する枠組みを提供するものとして、2011 年 4 月の第 38 回 TWG 会合での採択に向けて APEC 観光戦略プラン (ATSP) を最終的にまとめるよう促す。

《TWG 第三者評価と SCE への要望》

- 8 我々は、SCE の 2010 年 TWG 第三者評価が完了したことを確認し、謝意を表す。我々は SCE に対して、そこに盛り込まれている提言について検討するとともに、TWG の権限を越えた広範な観光関連の諸問題を認識するよう求める。

《TWG 第三者評価に対する評価》

- 9 我々は TWG に対して、活力に富んだ戦略プランの策定に向けて 2000 年の第 1 回 TMM で採択された APEC 観光憲章に関するソウル宣言から前進しつつ、極めて重要なインプットとして上記報告書の所見について評価するよう促す。

《APEC 観光プロジェクト》

10 我々は、APEC メンバーエコノミーにより策定、実施される APEC 観光プロジェクトは、観光協力の促進や能力構築、情報共有の面からも重要であると認識しており、より多くのエコノミーが新たなプロジェクトを提案及び支援するよう促す。また、「鳥インフルエンザ・パンデミックへの防止・対応についての APEC アクション」のような関連の過去のプロジェクトが今後の企画立案において TWG の指針となることも促す。

《TWG と APEC のその他のフォーラム》

11 我々は、TWG が APEC の主要目標の達成を目指す中で、互いに効果的な協力関係を築き、強化していくことを目的に、APEC の他の関連ワーキンググループや他のフォーラムとの連携に一層力を入れていることに対し、その意義を認めるとともに、高く評価する。

《TWG と民間セクター》

12 我々は、TWG と関連民間セクターやその他の国際機関との連携の重要性を認識する。また、APEC ビジネス諮問委員会（ABAC）や世界観光旅行評議会（WTTC）、太平洋アジア観光協会（PATA）といった民間セクターの代表による我々の活動に対するより実質的な関与及び活動計画開発への支援や、世界観光機関（UNWTO）や東南アジア諸国連合（ASEAN）、経済協力開発機構（OECD）といったその他の多国間及び地域機関との戦略プランの調整強化に対する TWG の取組も支援する。

《成長のエンジンとしての観光》

13 成長戦略が 2010 年日本 APEC の優先事項でもあるように、我々は、観光がアジア太平洋地域内の成長に重要な意味を持っていることを改めて認識し、経済の回復を加速させるためには、観光に関する各メンバーエコノミーのビジネス環境整備等、引き続き観光振興を図っていくことが必要不可欠であることを強く言明する。

《TSA》

14 我々は、観光がもたらす経済成長への貢献度を国際比較が可能な形で測る効果的な手段として「観光サテライト勘定」（TSA）の重要性についてもここで改めて提起し、域内全体で観光指標の調和を図るための各メンバーエコノミーによる TSA の実施や、エコノミー同士の情報交換を奨励する。

《観光フローの平準化》

15 我々は、観光は、より安定した雇用をもたらし、アジア太平洋地域における経済の成長に貢献するために、観光フローの平準化を促すことにより、(自然資産、文化資産、遺産資産を含む) 資産を極大化し、保護することができると認識している。このような方法により、観光が、持続可能(sustainable)で均衡がとれ(balanced) あまねく広がる(inclusive) 方法で成長することができる。

《インバウンド観光戦略》

16 我々は、インバウンド観光戦略という大きな経済効果を持つ普遍的テーマのもと、各メンバーエコノミーが、情報や優良事例を共有するとともに地域連携を模索することにより、観光振興に取り組んでいくことを推奨する。また、各メンバーエコノミーの官民の観光機関並びにそれらの連携促進の重要性を認識する。

《新しく多様な観光》

17 我々は、医療／ウェルネス観光・宗教行事観光・スポーツ観光・クルーズ観光・エコツーリズム・MICE（会議、インセンティブ旅行、国際会議、イベント／展示会）など、他分野との融合等による新たな切り口の観光への取組について情報及び優良事例の交換を図ることを確認し合った。これらの方策は、アジア太平洋地域の全域にわたって新たな観光需要及び観光関連投資を掘り起こし得るものである。

《エコツーリズム（GOS との共催）と AICST への言及》

18 我々は、サービス・グループ（GOS）が主導しているエコツーリズム・プロジェクト及び TWG とのエコツーリズム・カンファレンスの共催など、APEC フォーラム間の生産的連携を支援する。この点に関して、我々は「APEC 持続可能観光国際センター」（AICST）に対し、TWG に対する持続性問題についての専門家調査能力向上について現在の貢献について言及し、メンバーエコノミーによる新たなプロジェクトの提案を求める。

《次回会合ホストへの言及》

19 我々は、第7回TMMをホストするとのロシアの丁寧なる提案を歓迎する。

《ゲスト、事務局等への謝意》

20 我々は、AICST、PATA 及び WTTC といったゲストによる、第6回 TMM

への参加に対して謝意を表するとともに、彼らとの今後のさらなる協力関係を期待する。さらに我々は、APEC 事務局及びリードシェパードの会合の成功に向けた努力と貢献に対して深く感謝する。我々は、実り多く生産的なワーキンググループ会合及び大臣会合のホスト国である日本に対して心より感謝する。